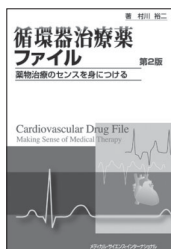


書評

[評者]

佐々木達哉

独立行政法人国立病院機構
大阪南医療センター
循環器疾患センター部長



循環器治療薬ファイル 薬物治療のセンスを身につける 第2版

村川裕二 著

A5変型 頁360 2色 図26 2012年
定価 7,350円(本体7,000円+税5%)
[ISBN978-4-89592-700-0]MEDSi刊

世に氾濫するマニュアル本，ガイド本がいかにも味気ないかということ，実際に患者を目の前にしたときにはそれほど役に立たないことなど，臨床の前線にいる医師はうすうす感じてはいるが，それをけして声に出せないような雰囲気が現在の本邦の医療界にある。しかし，本音で語られた言葉を聞くのがいかに心地よいものか，この書物は明確に示してくれる。

マニュアルやガイドラインはある一定の水準を維持するには有用であるが，それらの記述に魅力を感じないのは何故であろうか？ そもそも人を魅了するものは何か？ 例えば精緻なシンメトリックな造形は一見すれば美しく見えるが，魅了されるものではない。それは，あまりにも「個」を排した姿勢に見る側が感情移入をできないためであろう。意図しない非対称のなかに美を見出すのは，古来日本の美意識ではなかったであろうか。それが個性というものであろう。元来，個性が発揮されるのは一人の人間の内なる経験が一つの完結した形に結晶することが前提なので，一つの作品が個性をもち，人を魅了するには合作であってはならないのである。そうでなければその造形は見る人を魅了できまい。シンメトリックな美は模倣され大量生

産されるが，個性は模倣できないものである。

本書の旧版はあえて推薦の言葉を述べる必要もない大ベストセラーであり，所持していない循環器内科医はほとんどいないのではなかろうか。この第2版にも臨床経験に裏づけされた解説に著者の本音が吐露され，旧版にもまして著者の個性が輝いている。これが読者を魅了するのである。その解説には読者が賛同できるところもあり，そうでないところもあろう。このことは著者も織り込み済みで，もっと肩の力をぬいて読んでほしいということが「はじめに」に書かれている。しかし，どのページにも著者自身が経験した know how が満載されており，読者はそれを参考に自身の診療の軌道を修正したり後戻りしたりできる。実際の臨床現場に際して，こんなときに村川先生はどう考えているのであろうかとひもとくという手もある。そもそも人を相手にしている以上，本来の臨床とは考え悩むことであり，マニュアル本で短時間に機械的にかたづけられるものではなかろう。それを実感させる一冊である。

すべての循環器内科医に本書を薦める。